

## 患者・家族は再発防止を望んでいる

### ～根性論の医療でなく、仕組みで補完する医療を～

小牧 智 (社会人)看護学生 1年 青山キャンパス

豊田郁子先生へ

乃木坂スクールでの講演ありがとうございました。看護学生の小牧と申します。

「医療事故に遭った人(患者・家族)」の話を初めて伺いました。医療事故から現在までの豊田さんの活動を聞きながら、1つ1つ小さなことを地道に積み上げてきたらからこそ、現在の医療事故調査の制度に繋がられたのではないかと感じました。

患者・家族は医療事故を起こした「医療者の責任追及」をしたいのではなく、「医療事故に遭った自分と同じような思いをする人達をなくしたい。そのため原因究明することで『再発防止』をして欲しい」という思いなのだ、と、実際に医療事故に遭われた豊田さんから聞くことができ、印象に残りました。

講演後のお蕎麦屋さんでのお話も、興味深く拝聴させていただきました。医療事故を起こした医療者が罰せられるのみで、医療事故を発生させる危険が高い現場を放置していた経営・管理側の責任がなぜ問われないのか、とずっと疑問に感じていました。

患者団体から病院に話をすると、「医療者を守る」の建前の下、非協力的な対応をされる。その一方で病院は「医療者を処罰している」。この矛盾した現状があると聞き、病院の姿勢に残念な気持ちになりました。

医療事故に遭われた永井さんの話も印象に残っています。日本の医療は「仕組み・システム」で考えることができていないと。「優秀な医療者がいれば医療事故は起きない」という考えに囚われてしまっていると聞き、この考え方はまるで「根性論」ではないか感じました。海外での医療の動き、そしてメーカーなど人が関わる他業種を見ても「人はミスをする」という前提に立ち、「組織として個人のミスを防ぎつつ、万が一のときも医療事故にしない仕組みを作る」ことがされています。病院の経営者・管理者は、「いかにして医療事故を防ぐ仕組みを作れるか」が問われていることではないでしょうか。病院がもし医療者

を処罰するのであれば、同時に経営者・管理者も処罰されるのが自然な発想ではないと考えています。

そしてそもそも、患者は「医療者を処罰すること」を求めているのではなく、「今の医療のシステムの問題・課題を見つけて改善し、医療事故を再発させない」ことを望んでいます。それならば病院はそのことに早く気づいて姿勢を改め、医療者を罰するのではなく「医療事故を発生させた仕組みを改める」ことに取り組んで欲しいです。

永井さんが「このような病院にさせてしまったのは、我々患者側が病院任せにしてきた責任でもある。だから患者側も変わらないといけない」と言われていたのも印象に残りました。これまで患者は「病気のことはお医者さんの言う通りにします」としてきた姿勢がゆえに、医療事故が発生しても誠意ある対応がされない現状を発生させてしまったと。

そして最後に話題になった「医療事故のことに関心を持ってもらえるような情報の出し方」について考えさせられました。交通事故以上に医療事故が発生している身近なことだと、初めて知り驚きました。テレビで交通事故のことが毎日、ニュースに流れていますが、医療事故のことも毎日、テレビニュースで流れるような状態なのですね。もしみんなが医療事故の多さに気づくことができれば、患者側の意識も変わりますし、病院も医療事故の防止に積極的になると思います。

問題山積の医療事故調なのかもしれませんが、最も難しいと考えられていたゼロを1にできました。それならば、この1をいい方向に大きく育てることが出来るはずです。豊田さんのこれからのご活躍が楽しみです。

貴重なお話をありがとうございました！